令和６年度　つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
教務部	1　効果的行事の実施と授業時数の確保 （教育計画）	(1)各部署と連携し，効果的に行事を運営できるようサポートする。 (2)考査と考査の間の授業時数を意識し，適切な日時を提案する。 (3) 令和７年度教育課程（30 単位）を提示し，ゆとりのもてる行事予定を作成する。	B	A	(2)55 分授業を 50 分に変更し、授業時数確保のため、年間を通じタイトな日程の提案となったことは反省点である。 (3)令和７年度は 33 単位を 30 単位とし前年度よりゆとりある行事予定を作成することができた。
	2　計画的な生徒アンケートの実施 （実態調査）	(1)　生活調査と学習調査を複数回行う。教務部全体で集計する。 (2)　生活調査と学習調査の結果を該当学年に伝え，その後の面談等に利用していただく。 (3)　通学方法調査を行い正確な実態を把握し，学校基本調査・学校要覧に反映する。	A		(1)(2) 生活実態調査・学習状況調査「生活編」を２回、「学校編」と「進路指導編」を１回ずつおこなった。また、その結果を該当学年にお伝えした。効果的に面談等に使っていただけるように次年度促したい。
	3 ルーティン業務の輪番化 （記録・時間割・別室）	(1)　教務日誌を輪番化する。生徒の異動等を把握する。 (2)　時間割振替業務を輪番化する。選択科目の組み合わせを理解する。 (3) 別室の記録への記入を輪番化する。別室利用者の状況を把握する。	A		(1) 生徒の出欠状況及び異動状況に関心をもつことができた。 (2) 欠席した先生の振替業務において課題が残った。当事者意識を持つ様にしたい。 (3) 負担を均等にする点で効果があった。関与度が高くなり改善の提案もあった。
	4 バス・奨学金業務の確実な遂行 （バス・奨学金）	(1) 生徒サービスの一環と位置付け，分かりやすい説明を行う。 路線バスの変更に際し正確な情報を早く伝える。 (2) 両業務とも部員間での連携を密にし，漏れを防ぐ。	A		(1)(2) バス・奨学金とも部員間での連携を密にし、漏れを防ぐことができた。ほぼ、ミスはなかった。また、バスの遅れ等にも臨機応変に対応できた。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
教務部	5　テスト業務の円滑な実施 （時間割）	(1) テスト時間割と監督割を作成し，1週間前に告知する。返却特編時間割の作成と告知も行う。チャイム設定方法を学ぶ。 (2) テスト欠席者の追試を計画し，学年と協力し実施する。テスト未受験者を記録していく。	B	A	(1)(2)時間割担当者を育てる視点から、複数の教員が作成に関わる様にした。全体のスキルアップとはなったが、間違いを無くすことが優先され、教員の負担を均等にする配慮まではできなかった。時間割担当者のスキルアップは今後の課題である。
	6　教科書・教材・備品の管理 （教科書・備品）	(1) 次年度使用教科書の取りまとめを正確に行う。また，副教材の再注文業務をシステム化し，支払いまでの流れを確立する。 (2) 消耗備品を把握し，管理する。	A		(1) (2)大きな問題なく取り組むことができた。年間を通して行う業務ではないため、担当者の負担が一時的に増える。教務部全体として取り組む様にしたい。
	7　正確な数値と生徒異動の管理 （文書統計）	(1)　月別異動報告の把握と報告を正確に行う。複数の教員で行う。 (2)　定期考査後，成績個表を発行し，生徒が自ら振り返る機会とする。 (3)　文書及びデジタル文書を整理し，活用できる環境を整える。不要な文書を決まりに沿って処分する。保管年数を校務運営会議にて図る。	A		(1)(2)大きな問題なく取り組むことができた。ルーティン化され精度が上がった。 (3)表簿の管理を起案し、決まりに沿った年度末の流れを作ることができた。日頃より表簿を管理し、取り出せる環境を継続していきたい。
	8　教務部員のスキルアップ （人材育成）	(1) 2週間報・学年教務部会を通し，教務部業務を全体として把握する。 (2) 仕事が自己成長の機会であると捉える意識をもっていただく。	A		(1)(2)学年教務打合せは、昨年度に比べ継続することができなかった。2週間報・教務部レジメを通しするべき仕事を漏らすことなく行うことができた。

令和６年度　つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
進路指導部	1　自分の将来設計・将来展望の中に建設的に上級学校等への進路を位置付け，自分の将来に対して夢や希望が持てるよう指導する。	校内外での進路講演会や，進路相談会を企画し，自己の将来を考えるきっかけを用意する。また，医療系については，特色ある行事を計画し，職業感を持たせる。	A	B	昨年度の反省を生かし，医療系の模擬試験・校内体験等，予定通り実施できた。次年度に向けては，感染症を理由に実施できなかった病院体験実施を目指す。
	2　キャリアガイダンス，キャリアカウンセリング，進路別見学会，進路講演会，大学出前授業などの機会を提供し，進路(進学・就職)に対するしっかりとした動機付けを図る。	外部企画に丸投げすることなく，状況に応じた進路行事を企画する。今年度については，放課後の時間を活用したミニ入試説明会を個別の大学に来ていただき入試説明会を計画。	B		放課後を利用した進路行事が計画より少なかったため，放課後の活用に力を入れる。
	3　個々の生徒の進路希望，学力の実態及び今後の発展性などを常に把握しながら，より上位の進路目標を設定させ，その達成に向け全力を傾ける。	年間計画以外で，各学年独自の進路企画を行う。各学年に必要な内容を学年部と協議し，ＬＨＲを利用して行う。また，意識付けを目的とした行事を１，２年生で企画していく。	A		学年独自の進路行事については，各学年の進路指導部職員が中心になり，企画で来ていた。次年度もこの連携は続けていく。

令和６年度　つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
生徒指導部	１　交通ルールの遵守とマナーの向上	(1)交通安全指導の徹底。 (2)巡回・立哨指導の実施。 (3)自転車通学者への個別指導。	B	B	１　今年度の交通事故件数は５件であった。幸いなことに、人命に関わるような事故は発生しなかったが、５件中４件は自転車による事故であり、そのうち２件は事故発生後すぐに通報をしなかった事故であった。来年度は、事故の未然防止だけでなく、事故後の通報なども徹底して指導していく。 ２・３　今年度から創設された特別指導は１５件であった。内訳は喫煙関係が６件、原付免許取得が３件であった。個別指導はもちろんであるが、全体指導を通じても規範意識の向上を目指したい。ただ、校外からの苦情は年間で１件であり、本校生徒の校外におけるマナーの良さは大いに喜ばしいことであり、今後も成長させていきたい。
	２　規範意識と自己管理意識の向上	(1)面談における注意喚起。 (2)保護者への協力依頼。 (3)生徒への積極的な声掛け。 (4)掲示物等からの注意喚起。	B		
	３　問題となる行動の未然防止	(1)校内巡回の徹底。 (2)情報の収集と共有。 (3)各学年との連携。 (4)保健厚生部との連携。	B		
	４　学校行事の活性化と工夫	(1)　東風クラブ役員の指導。 (2)　コミティ活動の活性化。 (3)　生徒の主体性の育成。	A		

令和６年度　つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
渉外部	1　保護者の会の円滑な運営を図る。	（1）保護者同士の連絡、協働体制の充実に向け、多方面からの働きかけを行う。 （2）保護者が学校行事（東風祭など）に参画する機会を設け、学校と密接に協働できるようにする。	A	A	保護者が学校行事に参画する機会を多く設け、学校と密接に協働できるようにした。生徒の様子を間近にみたり、一緒に体験したりすることで、同じ目線での活動がアンケートの結果からも好印象であった。 行事の精選と、職員の共通理解を深化させ、生徒・保護者・職員共に充実感が持てるようにしたい。 働き方改革とも併せ、「保護者の会」の運営を見直したい。
	2　地域の活動に対し、積極的に参画する。	（1）近隣の自治体（かすみがうら市、土浦市、石岡市など）のホームページを必ず目を通し、イベントが開催される折には、保護者と共に参加をする。 （2）イベントに参加することで、一般の方々にも届く情報発信の一つとし、本校の教育活動の理解と周知を図る。	A		
	3　対外的な諸活動を滞りなく行う。	（1）式典（入学式、卒業式）へのメッセージカードの発送やお礼状の発送、年賀状の送付などの対外的な諸活動に対し、早めに準備し、失礼のないように滞りなく行う。 （2）他校を介して、生徒や保護者、一般の方々にも届く情報発信の一つとし、本校の教育活動の理解と周知を図る。	A		

令和６年度　つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
保健厚生部	1　基本的生活習慣の確立を基礎とし，自己の健康に目を向け，健全な心身の発達を目指す。	(1)委員会を活用した，心身ともに逞しい身体づくりを推進する。 (2) 遅刻カードにて生徒の心身状況の確認を行い教員間で共有する。 (3) ＡＥＤ講習，性教育講話等を実施し，生徒の事故防止に努め，また人格の完成豊かな人間形成を育成する。	A	A	1 毎週金曜日お昼休みに保健委員を輪番制で集め，アルコール補充，液体石鹸の補充を実施した。生徒が主体的に動く環境が整備できた。 また，今年度から新たな取組みとして，教員向け AED 講習，性教育講話を実施し，とても充実した研修だった。しかし，運営方法として課題が見つかった。生徒に密接なテーマの設定が必要である。 2 学校の環境整備という観点では，まだまだ改善する箇所が多数見られる。不必要な物品の放置。生徒がリラックスできるスペースの確保。清掃用具の充実さなど，安心・安全な環境整備を行うにあたって物足りなさを痛感した。 3　計画的にきめ細かく佐藤先生と連携を取って教育相談を実施。関野先生による研修を１回。外部講師を招いての研修を１回実施。次年度も継続したい。教育相談だよりを毎月発行した。
	2　快適で安全な環境づくりに努める。	(1) 教室環境の整備をする。 (2) 環境美化の意識の育成を図る。清掃活動や、清掃用具等の整備などを通じて，環境美化を図るとともに，物を大切にする人間性を育む。 (3) 委員会を運用する。主体的に活動できる人材育成を目指す。	B		
	3　教育相談の充実。	(1)保健厚生部長，教育相談係，養護教諭学年部長，担任との連携を強化し，生徒に関する情報を共有化することにより，素早くきめ細かい教育相談を行っていく。学年毎に教員を配置し連携を取れるシステムの構築。 (2)『教育相談だより』を発行する。人格の成長への援助を図る。	A		

令和６年度　つくば国際大学東風高等学校自己評価表

<table>
<tr><th>評価項目</th><th>具体的目標</th><th>具体的方策</th><th colspan="2">評価</th><th>次年度への主な課題</th></tr>
<tr><td rowspan="3">入試広報部</td><td>1　入学者 160 名を確保する</td><td>(1) 推薦・単願受験者の増加
(2) 個別相談、中学校・塾訪問の充実
(3) 医療・看護進学コースの定員確保</td><td>B</td><td rowspan="3">B</td><td>特進・医療看護進学コースの入学者を確保する。中学校・塾訪問を積極的に行い、本校の魅力を伝える。</td></tr>
<tr><td>2　受験者数を 750 名へ増加させる</td><td>(1) 説明会の充実
(2) 学校行事の刷新
(3) ホームページの閲覧数増加</td><td>A</td><td>HP や SNS を通して学校の PR を行い、参加人数を増加させる。また、宣伝ポスターを近隣の中学校へ配布し、受験者数の増加に繋げる。</td></tr>
<tr><td>3　他部署と連携し、本校のアピールポイントを明確にし、外部に発信する</td><td>(1) 生徒が生きいきと取り組める行事の企画
(2) ４年制大学への進学実績を説明会で発信</td><td>A</td><td>他部署と連携を密にし、本校の行事への取り組みや進学実績を説明会で発信する。</td></tr>
</table>

令和６年度　つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第１学年部	1　基本的生活習慣の確立	(1)　定期的に生徒面談を実施し，生徒一人ひとりの学習状況や生活状況を把握する。 (2)　家庭との連絡を密にし、家庭での生活状況を把握に努める。必要に応て，きちんと睡眠時間や食事をとることを指導する。	B	B	・夜更かしなどによる遅刻欠席が改善できない生徒がいた。継続して指導を続ける。
	2　人間関係を築く能力や規範意識の向上	(1)　道徳やソーシャルスキルトレーニングを通して，コミュニケーション能力や社会生活を営む能力を育成する。 (2)　挨拶や返事，身だしなみやマナーを守ることの重要性を認識させる。	A		・挨拶や身だしなみが不十分である。指導を継続し規範意識の向上に努めたい。
	3　基礎学力の養成	(1)　定期的に生徒面談を実施し，生徒一人ひとりの学習状況を把握する。 (2)　各種検定や課外授業などに積極的に参加するよう促し，自ら学ぶ姿勢を育成する。	B		・各種検定や課外授業に参加する生徒が多数いた。次年度も、さらに多くの生徒が受けるように呼び掛けていきたい。

令和６年度　つくば国際大学東風高等学校自己評価表

<table>
<tr><th>評価項目</th><th>具体的目標</th><th>具体的方策</th><th colspan="2">評価</th><th>次年度への主な課題</th></tr>
<tr><td rowspan="3">第２学年</td><td>1　面談を通した生徒理解</td><td>(1) 定期的に生徒面談を実施し、良好な関係を築く。年間５回以上の面談を目標とする。
(2) 夏季・冬季休業を利用し、保護者との面談を実施する。保護者面談において、生徒の実状に応じた対応を心掛け、信頼を得る。</td><td>B</td><td rowspan="3">C</td><td>(1) 各担任は年間３回以上の面談を実施。しかし，生徒理解という意味では不十分で，周到な質問事項を用意しての面談が必要であった。
(2) 事前に進路に関する資料を準備して臨んだ三者面談は有意義な情報交換が出来た。</td></tr>
<tr><td>2　生活習慣と規範意識の確立</td><td>(1) 生徒指導部と連携し、身だしなみを整え、規範意識を育む。
(2) 教育相談と連携しながら、特別活動やHR、道徳の時間を活用し、生徒の心や人間関係の構築を図る。その中で基本的生活習慣を身につける。
(3) 手帳を用い、起床時間、就寝時間学習内容を日々記録する。</td><td>C</td><td>基本的生活習慣の欠如，規範意識の低さが目立ち，転出者を多く出してしまった。生徒というより，教員の意識改革が必要である。寄り添いと指導の境界線を見極め，毅然とした態度で接することの必要性を感じた。状況に応じてどう対応するかの眼力，見極めを鍛え，適切な声掛け，指導をしていく必要がある。</td></tr>
<tr><td>3　進路意識の向上</td><td>(1) 進路ガイダンスの実施やオープンキャンパス等への参加を促し、進路を具体的に意識させる。
(2) 放課後の過ごし方をクラスで共有し、学習時間の確保に努め、学習環境を整える。</td><td>C</td><td>積極的にオープンキャンパスに参加するなど，進路に向かう姿勢は良い。しかし，放課後残って進路達成に向けて勉強している生徒は少数で，家庭学習時間も少なく，やるべき事を理解しての行動力はまだまだ低い傾向が見られる。</td></tr>
</table>

令和６年度　つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第３学年	1　確固たる自己の確立 周囲に流れない内面、自己解決できる行動力	(1) HR、道徳を通して、自己理解を促し、豊かな人間性を育む。 (2) 手帳を活用し、自己管理できる力を身に付ける。 (3) 生徒指導部と連携し、服装、身だしなみを整える。	A	A	(1) 総合学習、探求学習の充実を図り、体系的かつ計画的に取り組む。 (2) ＳＨＲでの連絡事項、受験スケジュール管理等、継続指導できた。 (3) 一部、徹底できない面があり、共通理解、同一歩調の指導を要する。
	2　進路目標の達成 未定者ゼロ・全員進路の実現を図る	(1) 進路と連携して LHR を通じて啓蒙を図る。 (2) 各教科と連携し、成績不振者、課題未提出者等を把握、注意喚起を促す。 (3) 面談・アンケートを通じて学習状況を把握し、適切なアドバイスをする。	A		(1) クラスを越えた「キャリア教育」を実践できた。学年縦断型、学校全体での組織的な取り組みを強化する。 (2) 成績不振者の補習中心の校内考査対策指導にとどまらず、受験指導も充実した。 (3)
	3　社会参加の実現 社会性を身につけ、社会とつながりを持つ	(1) 面談、日常における対話を重視し、生徒理解に努める。 (2) 学校行事、HR、授業内のグループワーク等他者と関わる機会を促す。 (3) 教育相談担当と連携し、人間関係の調整、支援をする。	B		(1) 担任、副担任が連携し、十分に対応できており、鋭意継続する。 (2) 一部不参加生徒がおり、更なる参加を促す努力、創意工夫を要する。 (3) 学内に留まらず、外部の関係機関との連携を強化する。

令和６年度　つくば国際大学東風高等学校自己評価表

<table>
<tr><th>評価項目</th><th>具体的目標</th><th>具体的方策</th><th colspan="2">評価</th><th>次年度への主な課題</th></tr>
<tr><td rowspan="3">国語科</td><td>1　進路実現のための実力養成
・語彙力
・評論読解力・小説読解力
・古文読解力・漢文読解力</td><td>(1) 特別進学コース・医療・看護進学コースを対象に授業内に入試対策として漢字・古語・語彙に関する小テストを実施する。
(2) 学期毎に，学習単元を評論と小説を交互に一つずつ扱う。特別進学コースでは入試問題演習を行う。
(3) 古文漢文は，概要を理解できるための基礎的事項習得を徹底する。</td><td>A</td><td rowspan="3">B</td><td>(1) 副教材を一通り終了できず、実施回数や出題範囲の見直しを図る。
(2) 学期によって校内考査の範囲終了に追われ、入試問題演習の時間確保が困難であった。
(3) 漢文の副教材を見直し、体系的に学習を展開できるよう更なる創意工夫に努める。</td></tr>
<tr><td>2　社会生活を営むための基礎力養成
・常用漢字を基本とする語彙力
・一般教養としての国語基礎
・表現力</td><td>(1) 進学コースを対象に授業内に常用漢字に関する小テストを実施する。
(2) 漢字検定や日本語検定の受検を奨励する。
(3) 作品創作や発表形式で「書く」・「話す」能力を養成する。</td><td>B</td><td>(1) 学年によって振り返り学習や反復学習が不十分であった。
(2) 受検者が増加し、更なる啓蒙と対策を強化する。
(3) 「読解力」指導が中心で「表現力」指導を増やす。</td></tr>
<tr><td>3　自ら学ぶ主体性の養成
・チャレンジ精神
・発言、発信する力
・知的好奇心</td><td>(1) ICT を活用し、生徒全員の意見を取り入れる創意工夫をする。
(2) グループワーク、討論による話し合いを取り入れた授業形態の導入。
(3) 新聞、動画等視聴覚教材を活用し、興味、関心を引き出す。</td><td>B</td><td>(1)(2)(3) 共通して教員の意欲、姿勢、能力に個人差があり、研修や教科会での意見交換を活溌化し、自己研さんに努める。</td></tr>
</table>

令和６年度　つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
地歴公民科	1　ＩＣＴを活用した授業づくり	(1)　写真や地図の拡大・縮小、画面への書き込み、映像視聴等から理解力を高める。 (2)　タブレットを活用し、積極的に協働学習を行い、思考力、判断力、表現力等を育成する。	A	A	1 (1) (2) 主にロイロノートを用い，視聴覚授業や生徒の意見を共有するなど、生徒が受け身にならない工夫をした。次年度以降も，引き続きタブレットを使用した授業展開を実践していく。 2 (1) 定期考査では，時事問題を取り入れ，普段から時事に関心を持てるような働きかけを行った。また，社会的な事象を取り上げた際には，論述させるなどの工夫を凝らした。次年度以降も継続して行う。 2 (2) 受験科目又は大学進学時の課題等で特に必要な生徒には個別に問題演習を行うなど，個々に合わせた取り組みを行った。次年度以降も継続して行う。 3 (1) 大学入学共通テストを踏まえ，傾向や対策について教科内で共有し合う必要がある。 3 (2) 各教員２回の研究授業を実施した。各コースの特性を踏まえ，生徒が主体的に参加できる授業を考えていく。
	2　進路目標に応じた受験指導	(1)　身近な社会的事象を題材として扱い、その原因と問題解決について分析し、筆記試験だけでなく、面接試験や小論文試験にも対応できる力を身につける。 (2)　演習授業や課外授業、個別指導などを行い、生徒の進路目標に応じた学力を育成する。	A		
	3　教員の指導力向上	(1)　大学入学共通テストの過去問題から、求められる力を分析し、授業に反映する。 (2)　生徒が主体性をもって取り組める授業を日頃より意識する。他者の授業を見て自分の授業を改善する。	B		

令和６年度　つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題・
数学科	1　基礎学力の定着	(1)　習熟度別授業や個に応じた指導を行う。教科書の基礎的な部分の理解が不十分な生徒へは補習等を実施し，理解度の向上を図る。必要に応じて，放課後や昼休みなどを活用して個別指導を行う。	B	A	・次年度は、数学Ⅰや数学Ⅱにおいて単位数が減るので授業の進め方に工夫が必要である。ペース配分や演習問題を精選し対応を図る。
	2　継続的な学習習慣の育成	(1)　授業ノートや演習ノートの点検を適宜行う。また，定期的に宿題を課し家庭学習の習慣化を図るとともに，小テストを実施し，学習への意欲を喚起させる。	A		・放課後や家庭において，生徒が自ら意欲的に学習に取り組めるよう工夫する。
	3　進路目標に応じた受験指導	(1)　進路目標別に授業を実施し，大学入試，専門学校入試，公務員試験，就職試験など，それぞれに対応する演習を行う。 (2)　演習授業や放課後の個別指導などを利用して，生徒の進路目標に応じた数学の学力を育成する。	A		・数学Ｃにおいて，共通テスト対策に遅れが出ないよう，授業の展開・進度を工夫する必要がある。

令和６年度　つくば国際大学東風高等学校自己評価表

<table>
<tr><th>評価項目</th><th>具体的目標</th><th>具体的方策</th><th colspan="2">評価</th><th>次年度への主な課題</th></tr>
<tr><td rowspan="2">理科</td><td>1　学習意欲を高める。</td><td>(1) 知的好奇心や探求心を持たせるため、目的意識を持って観察・実験を行う。
(2) 教科書、教科書傍用問題集を主に使い、予習復習がしやすいようにする。
(3)　電子黒板や動画を用いて視覚にうったえた授業を展開する。</td><td>A</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">・観察や実験を引き続き行い、探求心を養っていく。また、iPad や電子黒板を用いた授業を展開し視覚にうったえる授業をする。

・ 自分の意見を分かりやすく他者に伝えられるようにするため、レポートの作成を行い発表させる。（ロイロノートの活用も積極的に行っていく。）

・各単元で確認テストを行い、学力の定着を図る。また、iPad を用いて知識・理解を向上させる。

・生徒達が自分の進路に合った課外を受講できるよう、基礎から応用までの講座を設ける。</td></tr>
<tr><td>2　思考力・表現力を高める。</td><td>(1) 人前で発表するのが苦手な生徒が多いので、ロイロノートを使い意見の共有を行う。
(2) 演示などの実験を通じ、レポート作成をさせる。他者の意見を聞いて新しい考えに気付いたり、自分の考えを再確認したりしながら、自分の意見を他者に分かりやすく伝えられるようにする。
(3) 発表など能動的な授業態度を評価していく。</td><td>A</td></tr>
</table>

	3　知識・理解の定着を図る。	(1) 単元ごとの小テストを実施し、学力の定着に努める。 (2) 定期考査対策として教科書傍用問題集や、スタディーサプリを活用し、知識・理解の定着を図る。	B		・受験対策として、推薦・総合型入試対策を企画する。
	4　進路希望に応じた指導をする。	(1) 課外を実施し、受験に向けた基礎から応用までの指導をする。 (2) 受験対策として、レポート制作を取り入れ、推薦・総合型入試対策を企画する。	B		

令和６年度　つくば国際大学東風高等学校自己評価表

<table>
<tr><th>評価項目</th><th>具体的目標</th><th>具体的方策</th><th colspan="2">評価</th><th>次年度への主な課題</th></tr>
<tr><td rowspan="3">保健体育科</td><td>1　興味・関心を引き出せる指導の工夫</td><td>(1)生徒の実態に応じた簡易ゲームなどを取りいれ，生徒の競技への関心を高める。
(2) 毎授業後に自己評価をロイロノートに記入させ、授業のモチベーションを高める。</td><td>A</td><td rowspan="3">A</td><td rowspan="3">生徒の適正に合わせた体育実技が展開できた。１年生は基礎を学び、２，３年生で実践することができた。
さらに習熟度の授業を積極的に進めていきたい。
保健の授業においては、生徒の実態に合わせて、工夫した授業が展開できた。
さらにさまざまな生徒に対応するために、今年度以上にタブレットを使用し、グループでの学習を改善したい。</td></tr>
<tr><td>2　実技テスト・筆記テストの導入</td><td>(1)授業に合わせた実技テストを導入する。
(2)能力に応じてテストの内容を工夫する。
(3)実態に応じて筆記テストを実施する。</td><td>A</td></tr>
<tr><td>3　保健の授業に於いて生徒を積極的に授業に参加させる工夫</td><td>(1)グループ学習や，発問を工夫して，多くの生徒が参加できる授業を行う。
(2)タブレットを積極的に活用させる。</td><td>A</td></tr>
</table>

令和６年度　つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
英語科	1 基礎学力を重視した学習活動の展開	(1) 生徒の学習状況を理解し、生徒の状況に応じた授業を展開する。基礎的な英文法を反復し、発展できる土台を作る。 (2) 特別進学クラスでは、共通テストを意識し、リスニングと速読を中心とする。 進学クラスでは、生徒が主体的に取り組める活動を取り入れる。 (3) 映像授業宿題や課題を活用し、生徒の家庭学習習慣の確立と知識の定着を図る。	A	A	(1) 基本的英文法の定着のための時間を作り、ある程度の成果を得られた。必要に応じて既習事項に戻り、更なる定着を図ったため、進学コースにおいては学習進度が緩やかになった。 (2) 特別進学コースでは、共通テストを意識した授業を展開することができた。ALT との活動を通して、生徒は主体的に活動することができた。 (3) 課題によって学習意欲を刺激し、生徒の意識を自学自習へと向けるきっかけとなった。
	2 ICT（情報技術）を用いた授業の展開	(1) ICT（情報技術）利用が目的とならない利用方法を教科内で共有する。 (2) 他教科における ICT（情報技術）の利用方法を参考とし、英語科における活用方法を検討する。	A		(1) ICT（情報技術）を効果的に使用することができた。一方で、ICT（情報技術）に頼りすぎない意識を持ち授業を展開した。 (2) 研究授業を通し、他教科での ICT（情報技術）利用方法について学ぶことができた。
	3 学び続ける教員 ・民間の英語４技能検定の受験 ・問題研究 ・研究授業を一回以上実施する	(1) 英検、TOEIC など、民間英語４技能検定を受験または過去問を解き、自分なりの教え方を確立する。 (2) 共通テスト筆記 100 点・リスニング 100 点を全教員が目指す。 (3) 生徒が主体性をもって取り組める授業を日頃より意識する。他者の授業を見て自分の授業を改善する。	B		(1) 自らの資質向上のため、各種検定に取り組んだ。また、受験できなかった教員も問題を見るなどし、傾向をつかむ努力を行った。 (2) 各教員とも、進路指導の一環として共通テスト過去問に目を通し、指導に活かした。 (3) 英語科内に留まらず、他教科を含む多くの先生の授業を見学する様にした。また、自身の授業に活かすようにした。

令和６年度　つくば国際大学東風高等学校自己評価表

<table>
<tr><th>評価項目</th><th>具体的目標</th><th>具体的方策</th><th colspan="2">評価</th><th>次年度への主な課題</th></tr>
<tr><td rowspan="2">芸術科
（音楽Ⅰ・
美術Ⅰ・
書道Ⅰ）</td><td>1　生徒一人ひとりの個性に応じた感性を引き出し、伸長する。</td><td>(1)　芸術的表現力（演奏・表現・書写）や技術の向上を図る。
(2)　作品鑑賞を通して、自己や他者の価値意識を育てる。
(3)　ICT 機器を積極的・効果的に活用し、「楽しく・わかりやすい授業」を実践する。
(4)　個々に懇切丁寧な指導・きめ細やかな指導する際に、指導者の経験値や考えを強調しすぎないように配慮する。</td><td>A</td><td rowspan="2">A</td><td rowspan="2">歌唱指導・演奏指導の実技指導時間が持てるようになった。感染症対策に配慮をしつつの実施のため、不足気味であった。
古典芸能・伝統芸能の理解のため、芸術共通のコラボレーション授業の実施が少なかったので、次年度は多いに実施したい。生徒が選択している科目以外の内容理解と興味関心を引き出すチャンスとなることが期待できると考える。</td></tr>
<tr><td>2　我が国の伝統芸能の一端を理解し、尊重する態度を養う。</td><td>(1)　古典芸術の作品に触れる機会を多くする。
(2)　伝統芸能（邦楽・雅楽、工芸、書道）の技法や歴史を理解する。
(3)　日本独自の芸術文化をアピールする材料を探り、ICT 機器に保存した自己作品など利用しつつ、生徒自身が情報発信できるようにする。</td><td>A</td></tr>
</table>

令和６年度　つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
情報科	1　パソコン室のシステムの理解（生徒・教員）と安定的な運用。	主に，google アカウントの管理・作成，パソコンやプリンタの保守管理。 パソコンの更新（windows11 への移行）についても事務と連携し実施できるようにする。	B	B	パソコンが新しくなり，特定の教材 DVD が一斉送信できないなど，まだまだ不具合があるため，安定運用できるよう業者との連携を続けていく。
	2　高校卒業後に困らないような基本的な技術の習得	タブレットは操作できるが，パソコンになれていない生徒が多く，進学や就職時に困る生徒が多い。情報科では，タブレットではなく，パソコンを使うことを中心にする。また，プログラミングについての指導を増やしていく（Python）。	B		2 年次にプログラミングの指導計画通り出来なかった。3 年次の指導で補う。 3 年生は新課程の指導内容に対応することに集中してしまい，卒業後を見据えた google アプリの活用に時間を割けなかったため，改善をしていきたい。
	3　情報モラルの向上	SNS に関するトラブル指導，著作権など法律に関わる指導は高校卒業後にも関わっていくため，2 年 3 年どちらでも繰り返して指導する。	A		モラル指導については，2.3 年どちらでも授業をした。トラブルや詐欺被害など年々内容が変わるため，今後もこの対応を続けたい。